

小学部 4年 チャレンジタイム（国語，算数，自立活動）学習指導案

1. 単元名 みんなでかぞえよう「1，2，3，ぼん」

2. 指導についての考え方

○児童の実態

本学級は○児◇名で構成されている。児童たちの国語や算数に関する実態はさまざまである。今までの学習で、チャレンジタイムは、二部構成であり、前半は全体での学習をした後、後半はそれぞれの机で個別の課題を学習する流れを理解することができてきた。一学期の全体での学習では、ペープサートやパネルを使った物語の読み聞かせに親しんだ。その中で、友だちが前でやっていることに注目すること、前に出てお話の中の動作をすることが、少しずつできるようになり、みんなでいっしょに読み聞かせを楽しむことができた。しかしながら、算数に関しては、今まで、教師と一対一の関係の中で学習してきており、学習に対する意欲に乏しい面がみられる。また、実態に関しても、数字が読めないが、お盆にスプーンやフォークなどをきちんとひとつずつ並べることでできる児童や、数字は読めるが数量とは結びついていない児童、数量が5前後まで理解できている児童、同じく数量が10前後まで理解できている児童と、さまざまである。

○単元設定の理由

本単元は、二部構成になっており、①「みんなでかぞえよう1，2，3，ぼん」では、具体的な操作を通して、数の学習に対しての意欲を高め、数量に親しむことをねらいとしている。②「つくえでべんきょう」では、個別の課題学習を通して、国語や算数あるいは自立活動のそれぞれの実態に合った力を伸ばしていくことをねらいとしている。①の「みんなでかぞえよう1，2，3，ぼん」は、全体で学習する。ゲーム的な要素やリズムカルな音楽を取り入れており、児童が楽しく学習できるものである。また、児童が数えるカードを調整することができ、各自の実態に応じた数に親しむことができる。さらに、全員で学習することで、友だちや教師からの注目や賞賛を意識することができ、児童の数に対する興味と関心をさらに高めることができる。②の「つくえでべんきょう」では、一人ひとりの実態、興味・関心にあった課題を数種類かごに入れ、各自で取り組んでいく。実態の大きく異なる5人それぞれに、個別に対応した教材を準備することができ、児童の実態に応じた様々な学習をすることができる。従ってこのような単元を設定することは大変意義深いと考え、本単元を設定した。

○支援にあたっての考え方

学習内容の工夫

- ・毎回同じ流れ（①全体での学習②机について自分の課題に取り組む→自分の課題が終わればチャレンジタイムの時間は終わる）にすることで、児童が見通しを持って学習に参加できるようにする。
- ・机での学習が終わった後は、終わりの報告を教師にした後、課題の入ったかごをそれぞれでかたづけ、まだ学習の終わっていない児童の妨げにならないようにして静かに過ごす。この時、それぞれの児童の好きな活動を用意しておく。

学習環境の工夫

- ・全体での学習の時はいすのみで前に集合、それぞれの学習の時はあらかじめセッティングしている机にむかって学習をする。そうすることで、全体と個別の違いを分かりやすくすることができ、学習に対する意欲と見通しを持たせる。

3. 単元目標

- ・みんなでかぞえよう「1，2，3，ぼん」で数に親しむことができる。
- ・国語や算数，自立活動の力をくり返して練習することで、その力を高めることができる。
- ・見通しを持ち、最後まで集中して課題に取り組むことができる。

4. 児童の実態と目標

	A児	B児
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 文字や数字に対して、興味を持つ。 具体物を数える経験をする。 手の巧緻性や、コミュニケーション能力を高める。 学習に見通しを持ち、最後まで意欲的に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前を丁寧に書くことができる。 簡単な2, 3文字の単語を読むことができる。 10までの具体物を数えることができる。 学習活動に見通しを持って積極的に参加することができる。

単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちによっては、時々みんなの前で活動ができない時もあるが、前で活動することは楽しめる。 言われた平仮名を選ぶことができる。 大きく書かれた文字をなぞることができる。 数量と結びついていないが1～10までの数字を選ぶことができる。 1対1の対応ができる。 学習に見通しを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の学習場面では、やりたいという気持ちが強くて合図を出すのを忘れていたりすることがある。 わからないことを友達の動きを見ながら理解することができる。 平仮名の一文字ずつの拾い読みはできる。濁音などで間違えることもある。 1～10までの数唱では8や9で間違えることがある。 右手に麻痺があるために左手だけで作業しようとすることが多い。
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> 教師といっしょにカードを数えて、数量1～5に親しむ。 教師といっしょに文字カードを組み合わせて単語を作る。 課題を最後まで集中してすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1～10までの数量を数えることができる。 文字カードを組み合わせて単語を作ることができる。 自分なりに右手を使って活動することができる。 課題を最後まで集中してすることができる。
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業に積極的に参加できるように、みんなの前で、号令をかけたり合図をしたりする場面を作る。 全体の学習では、楽しく数えることができるように、オーバーに歌ったり、強弱をつけて歌ったりして、楽しい雰囲気大切に作る。 個別の学習では、集中して取り組めるように、本児童が一人であることができるものを中心にさせる。 取り組む順番、課題の量や内容を知らせ、学習に見通しを持たせるために、かごの中に課題を入れ、重ねておく。 本児童が考えたり工夫したりしている場面を大切にすため、見守る姿勢を大切にす。 意欲を持たせるために、個別の課題終了後に好きな活動を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけひとりで活動ができるように、友達の活動をよく見るように促したり、掛け声を一緒に言ったりする。 興味を持つことができるように、本児童の好きなキャラクターをカードに入れる。 本児童が考えたり工夫したりしている場面を大切にすため、見守る姿勢を大切にす。 文字や数を一つずつ確実に抑えていけるように、言葉かけをしたり一緒に確認したりする。 左手だけでは活動しにくいことに気付かせるために、右手を添える必要のある課題をする。 意欲を持たせるために、個別の課題終了後に好きな活動を用意しておく。

5. 指導計画(全12時間)

① みんなでかぞえよう「1, 2, 3ぼん」

	活動内容	目標
第1次 (2)	『サイコロを使ってあそぼう。』 ・出た面にはってあるキャラクターをみんなの前で発表する。	・キャラクターのカードを自分の写真カードの横にはることができる。 ・自分の順番で落ち着いてさいころを投げるることができる。
第2次 (6) 本時(4/6)	『みんなでかぞえよう1, 2, 3, ぼん。』 ・出た目のキャラクターのかごを選び、カードを並べて数を数える。	・自分の方法で数量を数えることができる。 ・落ち着いて順序良くさいころを投げるができる。
第3次 (4)	『だれがおおい?かぞえてみよう。』 ・出た数をみんなと比べて誰が一番多いかを競うゲームをする。」	・自分の方法で数量を数えることができる。 ・一人ひとりの課題にそってゲームをすることができる。

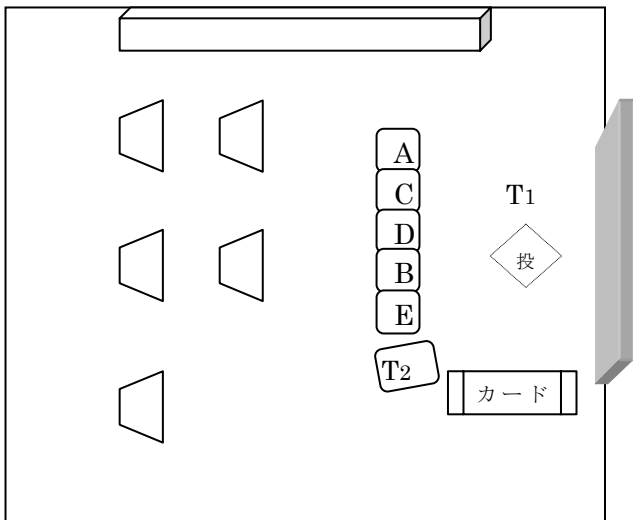
後半部部分の「つくえでべんきょう」は一年を通してそれぞれ実態にあった課題を用意する。

* 児童の達成度によって少しずつ内容を発展させたり、別の課題に変えたりしていく。

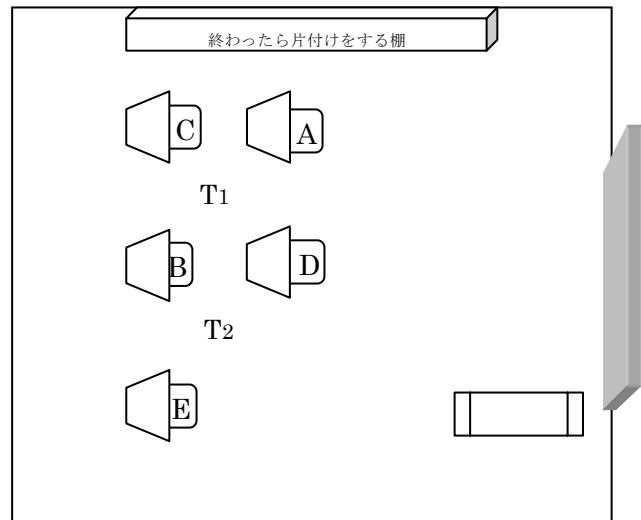
6. 本時について

場の設定

① みんなでかぞえよう「1, 2, 3ぼん」



② つくえでべんきょう



○準備

さいころ, キャラクターのカード, さいころぼんの歌テープ, カードをはり付ける台紙, 児童一人ひとりにかごに入った個別の課題 (5人分)

○本時の展開

(1) 本時の目標

- ・絵カードを一つずつ指差して数え、正しい数字カードを選ぶことができる。
- ・個別の課題に積極的に取り組むことができる。

(2) 展開

	めざす姿	評価
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを一つずつ指差して数え、正しい数字カードをえらぶ。 ・見通しを持ち最後まで集中して課題取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい数字カードを選べたか。 【自分で 教師と できない】 ・集中して取り組めたか。 ビーズ通し 【自分で 教師と できない】 名前作り 【自分で 教師と できない】 文字のなぞり 【自分で 教師と できない】
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 今日の学習について知る。</p> <p>3. 「1, 2, 3, ぼん」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽をかける合図を出す。 ・さいころをころがす。 ・さいころの出た目のカードと同じカードが入ったかごを選ぶ。 ・かごの中のカードをボードにはる。 ・数字カードを選んでほる。 ・みんなでいっしょに数えて、答えの確認をする。 <p>4. 「つくえでべんきょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いすを持って、机まで移動する。 ・かごの中の課題を、上から順番にする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① ビーズ通し</p> <p>② 名前作り</p> <p>③ 文字のなぞり</p> </div> <p>5. おわりのあいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終わりの報告を教員にし、終わりの挨拶をする。かごを決まった位置にかたづける。 	<p>1. はじめのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児童に挨拶をさせることで、活動にスムーズにはいれるようにする。 <p>3. 「1, 2, 3, ぼん」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼んでも前に出てこようとしないときには、後でタイミングをみて再度声をかける。 ・カードの数は1～5にする。 ・考える場面を大切にするため、本児童がボードにはっている時にはいっしょに数えるが、答えの数字カードを選んでいるときには見守る。 ・答えが間違っていた場合、確認をする時、本人が気付くように最後の数を強調する。 ・意欲を持たせるために、しっかりと誉める。 <p>4. 「つくえでべんきょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな課題からしようとしたら、上から順番にするように促す。 ・課題に集中できずにいるようだったら、できるだけ自分ですることができるように、課題を指差したり、いっしょにしたりする。 ・文字カードをはり間違えたときは、間違いに気づかせるために、一つずつ指差して文字を読む。 <p>5. おわりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成感をもたせるために、がんばったことを賞賛し、いっしょにあいさつをする。 ・好きな活動（教材の片づけ）をいっしょにする。

	めざす姿	評価
B 児	<ul style="list-style-type: none"> カードの数（1～10）を数えることができる。 個別の課題を最後まですることができると。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい数字カードを選べたか。 【自分で 教師と できない】 集中して取り組むことができたか。 キャップしめ【自分で 教師と できない】 5～10の数【自分で 教師と できない】 単語作り 【自分で 教師と できない】
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 今日の学習を知る。</p> <p>3. 「1, 2, 3, ぼん」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽をかける合図を出す。 さいころをころがす さいころの出た目のカードと同じカードが入ったかごを選ぶ。 かごの中のカードをみんなの前で数える。 数字カードを選んでほす。 みんなで一緒に数えて、答えの確認をする。 <p>4. 「つくえでべんきょう」 個別の課題の学習</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>① キャップしめ</p> <p>② 5～10の数（プリント）</p> <p>③ 3文字の単語作り</p> </div> <p>5. おわりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 終わりの報告を教員にし、終わりの挨拶をする。かごを決まった位置に片付ける。 	<p>3. 「1, 2, 3, ぼん」をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音楽スタート」と合図を出すことを確認してからさいころを渡す。タイミングを間違えたときには教師と一緒に合図を出す。 カードの数は6～10にする。 答えを確認しているときに間違いに気付いたら、本人にやり直しを促す。その上で、間違いに気付いたことを賞賛する。 <p>4. 「つくえでべんきょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとりでやっているという気持ちを引き出すために、できるだけ、見守るようにする。 分からないことや迷っていることがあったときには、できるだけ教師への働き掛けを待つようにする。 間違いに気付くように、一つずつ文字や数字を確認しながら、一緒に答え合わせをする。 <p>5. おわりのあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成感をもたせるために、頑張ったことを賞賛し、いっしょにあいさつをする。 終わったなら楽しみにしているぬりえや本読みをしてよいことを伝える。ぬり絵も好きなものを選ぶように数種類用意する。